

月刊

ENGO

2月号

2013年2月1日

カトリック大阪大司教区ENGOプロジェクト

発行責任者：松村繁彦

連絡先：TEL：090-5258-5704

(平日 18時～21時)

FAX：06-7494-9845

e-mail: engo@osaka.catholic.jp

東日本大震災2周年

祈念の集い「3・11 つなぐ」開催

3月11日で東日本大震災から丸2年を迎えます。ENGOでは3月10日(日)16時からサクラファミリア(大阪梅田教会)で震災2周年祈念の集いを開催いたします。亡くなられた方々のために、復興に向けて努力しておられる方々のために、震災の被害を忘れないために、ともに時間を過ごしましょう。

日時：2013年3月10日(日)

場所：サクラファミリア

16:00～

1階 軽飲料販売

2階 講演会 講師：田淵六郎

「震災・復興—地域社会から考える」

17:30～

3階 写真展、被災地グッズ販売

(収益は被災地へ)

18:00～

聖堂 演奏と朗読「高田松原ものがたり

～消えた高田松原と奇跡の一本松～」

音楽：奥野勝利・朗読：魚住由紀

19:20～

聖堂 追悼の祈り

20:00 終了

イベントの中で朗読してくださるのは、フリーアナウンサーの魚住由紀さんです。魚住さんは昨年終了した毎日放送ラジオ「ネットワーク1・17」のパーソナリティーを17年半にわたってつとめられ、遺族の心情や防災の重要性を伝えてこられました。東日本大震災直後の3月15日からは特別番組「ネットワーク3・11」を9回にわたって放送。リスナーから応援メッセージを募って、東北放送(仙台市)で流してもらい、東北の被災者から「関西のメッセージに勇気づけられた」との声が寄せられたそうです。

今、私たちにできることは何なのでしょう？まだまだ復興というにはほど遠い状況が続いています。遠くにあっても被災された方々と心をつなぎたいとテーマが考えられました。奮ってご参加お待ちしております。

小教区の活動紹介～夙川教会

夙川教会では昨年より、独自に被災地支援のための委員会を設置し、支援活動にまい進されてきました。今回はその活動の一部をご紹介します。

夙川教会の役割は、場所提供と会場設営

2012年10月14日にチャリティーコンサートが開催されました。この立案・実行は信者ではない方でした。

芦屋で洋菓子製造を営むMさん親子が、ご自分の日頃の幸せの感謝のしるしとして、少しでも東日本大震災の復興に役立ちたいと思い、旧知のハープ奏者の藤岡梨華子さん(各地でボランティアのコンサートを開いておられる信者さん)に相談され、ハープコンサートの開催を企画されました。たまたま夙川教会の社会活動委員会のメンバーの1人がMさんの学生時代の友人であったことから、夙川教会に会場提供を依頼されました。

このコンサートのポスターには夙川教会は共催となっていました。が、夙川教会の実際の役割は会場の提供と設営および場内案内でした。しかし、Mさんは「希望通り2012年の秋にコンサート開催が実



現できたのは、夙川教会の梅原主任神父の災害復興支援に対する深い理解のお蔭です。」とのことでした。

夙川教会は2012年が聖堂建堂80周年にあたり、10～11月はその記念行事のスケジュールがつまっております、事実、コンサート開催日の10月14日は、21日の記念ミサ・祝賀会を迎えるための教会の大掃除日と重なっていました。

寄付金の大半は、信者ではない方々の善意

聖堂の地下ホールがコンサート会場となり、11時半と14時の2回の演奏が行われました。結果は2回の演奏共、満員の盛況でした。Mさんの洋菓子のファンの方々が多数来て下さいました。会場が一番奥が演奏者の舞台でその前に椅子席があり、その後方には大きなテーブルが数個置かれ、そのテーブルを囲んでコーヒー（有料）を楽しみながら、演奏を聴くこともできるように配慮されていました。

夙川教会の災害復興支援部に寄付されたお金は、この日販売されたお菓子とコーヒーの売上収益金、及び来場者の献金です。この寄付金の大部分は、信者ではない方々の善意の賜物です。

陸前高田の社会福祉法人大洋会 青松館に寄贈した経緯

青松館は大船渡ベースのシスター野上から紹介された授産施設で、



大船渡、陸前高田を含む気仙地方に伝わる食用樅油の生産を継承している唯一の事業所です。

気仙地方は樅の実が採れる北限とされ、伝統産業として食用樅油の生産がされて来ましたが、3・11の津波で壊滅的な被害を受け、一つの事業者を除き、すべての事業者が廃業に追い込まれたそうです。残された唯一の事業者も事業主が高齢のため事

業継続が困難になっていましたが、青松館が樅油生産のノウハウを教わり、事業を引き継いで行くことになりました。

夙川教会では、この食用樅油の販売に微力ながら協力してきましたが、青松館が安定的に事業を継続していくためには、原料の樅の実を貯蔵するストック・ルームが必要となり、その建設を計画しているとの情報を得ました。

11月の災害復興支援部の例会で、この計画を全面的に支援し、上記の寄付金を全額青松館に寄贈することに決定し、主任司祭の了承を得た上で、11月30日大船渡を訪問した社会活動委員会委員長が、直接青松館に寄付金を手渡すことができました。関わったすべての方々の心を一つの形にすることができました。心から皆さまに感謝申し上げます。



パネルの貸出しについて

この一年間、多くの方々にパネルを利用して頂きました。ありがとうございました。これからも多くの方に利用して頂きたいと思っておりますが、パネルの内容は震災から約半年の間に撮られた写真をもとにして作られています。その点をご了承くださいますようお願い致します。

ご利用ご希望の方はお気軽にご連絡をください。



(A3版 28枚セット)

なお、このパネルは東日本大震災2周年祈念の集い「30011つなく」の会場でも見ることができます。